

22. 工業団地（福島県ロボットテストフィールド）整備事業（完了）

復興工業団地、福島ロボットテストフィールドを核とした新産業創出と人材誘導を推進します。

事業概要

- 市内の多くの事業所は、震災と原発事故の影響により休業や廃業、市外への事業所移転、従業員の解雇を余儀なくされるなど、深刻な状況が発生しました。
- その後も風評被害による受注の減少や、取引先企業からの要請によりやむなく市外に移転せざるを得ない企業が出るなど、市民の長期的かつ安定的な雇用の場が大幅に減少しており、新たな雇用の場の確保のために工業団地を造成し、企業誘致を図る必要があります。
- そのため、市内2か所（渋佐・萱浜地区、下太田地区）で工業団地を整備しました。
- さらに、福島イノベーション・コースト構想において、県が整備する「福島ロボットテストフィールド」を活用し、「ロボットのまち南相馬」を実現させるため、ロボット産業関連企業等の進出をサポートします。
- 国や県が実施している企業立地補助金の他に、新規雇用数に応じて市独自の助成金を交付する制度を整え、新たに立地する企業への支援を行っています。



復興工業団地の整備スケジュール

項目	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
工業団地（1工区）					
工業団地（2工区）					
福島ロボットテストフィールド整備					

※ 福島ロボットテストフィールドは、平成30年度以降、順次開所しており、令和2年春に全面開所しました。

下太田工業団地の整備スケジュール

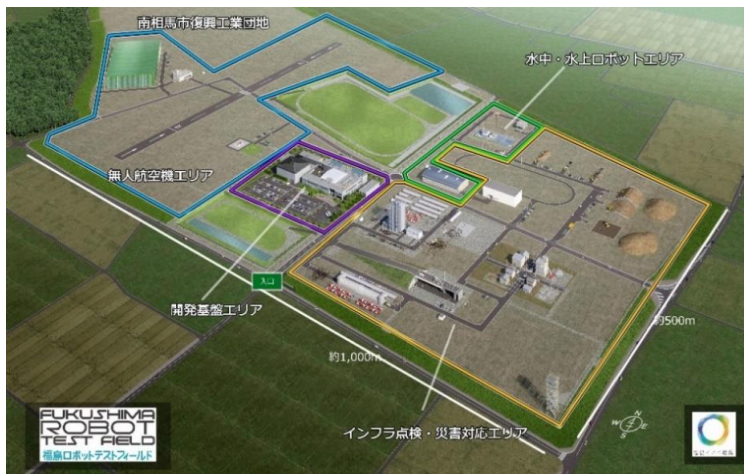
エリア	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
第1期造成エリア							
第2期造成エリア							

- 【第1期造成エリア】
- ①用地面積：7.6ha
 - ②供用開始年度：平成26年度
- 【第2期拡張造成エリア】
- ①用地面積：5.7ha
 - ②供用開始年度：令和元年度

復興工業団地（福島ロボットテストフィールド）事業概要

- 沿岸部の津波被災地である浪佐・萱浜地区に、約70haの工業団地を整備しました。
- 工業団地の用地については、防災集団移転促進事業により市が被災された方から買取りを行う宅地などの換地集約と土地改良事業（ほ場整備）により創出される土地などを活用しています。
- 福島県が、ロボット研究の拠点となる「福島ロボットテストフィールド」を復興工業団地（約50ha）に整備しました。工場用地として利用できる面積は、道路敷・緩衝帯等を除き、約12haになります。
（令和7年度から「福島ロボットテストフィールド」は、F-REI（福島国際研究教育機構）に統合されました。）
- 「福島ロボットテストフィールド」は、物流やインフラ点検、大規模災害などに対応する陸・海・空のフィールドロボットを主対象とした一大研究開発拠点であり、市では、この拠点を核とした取組を加速させ、社会や技術の変化に対応できる「人」を育て、市内企業の技術革新、販路拡大等につなげるべく取り組みを展開していきます。

復興工業団地（福島ロボットテストフィールド）完成写真（一部イメージ）



総事業費

総事業費	約87.1億円	復興交付金 福島再生加速化交付金
------	---------	---------------------

担当部署

【復興工業団地に関すること】

- 南相馬市商工観光部 商工労政課企業支援係
Tel 0244-24-5335

【福島ロボットテストフィールドに関すること】

- 公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構
「福島ロボットテストフィールド」
Tel 0244-25-2473